

●トピックス

座談会参加者研修先一覧

氏名	研修先	国名	研修期間
浅野真由美	トロント大学 神経変性疾患研究センター	カナダ	平成12年 6月24日 ～9月30日
岸本 卓磨	ハーバード大学 ベイスイスラエル医学研究所	アメリカ	平成12年 7月 1日 ～9月18日
小島 正継	プリティッシュコロンビア大学 医学部内科学講座(神経内科部門)	カナダ	平成12年 7月 1日 ～8月23日
友野 輝子	エーテポリ大学 解剖学細胞生物学研究所医科細胞生物学講座	スウェーデン	平成12年 6月24日 ～9月16日
長尾香代子	トロント小児病院	カナダ	平成12年 6月24日 ～9月 3日
西村 美穂	ペイラー医科大学 細胞生物学教室	アメリカ	平成12年 7月 1日 ～9月30日
真下 陽子	セント・クリストファーズホスピス	イギリス	平成12年 6月30日 ～9月10日
山下 博	ミシガン大学 医学部消化器病学教室	アメリカ	平成12年 7月10日 ～8月25日

【座談会】海外自主研修を終えて

滋賀医科大学では「海外自主研修」が、医学科第4学年を対象に本年度から実施されることになった。

この研修は、「将来の研究者の育成」「研究意欲を持ち続けることのできる臨床医の育成」「学生の自主性を啓発し、全ての分野で求められる積極的な人材の育成」を目的としたもので、本年度は8名の学生が、2～3カ月の日程で、北米やヨーロッパの医療機関や研究施設で研修を行った。

研修に参加した学生のみなさんに集まっていただき、その成果や研修を終えての感想などを話していただいた。

海外の医療現場や先端の研究にふれ、視野を広げるために研修に参加。

まず、研修を希望された動機や目的についてお話しいただけますか。

真下 高校生の時に、ホスピスについて書かれた本を読んだことがきっかけになって、将来、老人医療に携わりたいと思うようになりました。世界で最初に作られたイギリスのセント・クリストファーズホスピスを、ぜひ在学中に訪ねて、そこで行われている医療を自分の目で確かめたいと思っていました。研修への参加を希望しました。

友野 スウェーデンのエーテポリ大学の解剖学細胞生物学研究所にお世話になりました。特にスウェーデンを希望したわけではありませんが、かねてから海外で勉強したいと思っていましたので、今回の研修制度ができたことを知って、飛びついたという感じです。

長尾 私は、子どもとその家族を心理的にサポートする医療はどうあるべきかを以前から考え、勉強してきましたが、学生のうちに第一線の医療を見ておきたいと考えて今回の研修を希望しました。

小児病院としては北米最大の規模で、家族中心の医療を行っているカナダのトロント小児病院で、見学生として受け入れていただくとともに、サマーボランティア



真下

ランディアのブログラムにも参加させていたいただきました。浅野 カナ

ダのトロント大学の神経変性疾患

研究センターで研修を受けました。将来、外国で働きたいという希望をもっていましたので、今回の制度を利用していただきました。

小島 私も将来、海外で医療活動をしたいという希望をもっているのですが、海外の研究室がどういった雰囲気かを若いうちに経験しておきたいと思ったことが動機になりました。

カナダのプリティッシュコロンビア大学の神経内科部門の研究室に、2カ月間お世話になりました。

岸本 機会があるのなら、時間のあるうちに海外でいろいろ経験を積んでおきたい、視野を広げたいと思っていました。ポストンのハーバード大学のベイスイスラエル医学研究所におられる、滋賀医科大学の第2外科の山本寛先生の仕事をお手伝いするという形で研修を受けました。

山下 3年の時に始まった能動学習では、最初は教科書を読むことからスタートして、文献を調べて論文を書いたりしましたが、だんだん実際に実験してみたいと思うようになりました。そのことを解剖学の藤宮先生に相談していただきましたが、それならば今回の制度を利用してみたいということだったので、ミシガン大学の消化器病学教室を紹介していただきました。

研修先はどのようにして決めた



長尾

のですか。また、出発前になにか特別の準備をされましたか。

浅野 行く前に、自分の興味のある神経関係、遺伝子関係の実験ができるところに行けるよう先生に相談にのっていただいて、希望にそった研究所を紹介していただきました。

小島 中枢神経について興味を持っていましたので、そういった研究をしておられるところを希望しました。

岸本 特になにを研究したいというより、とりあえず外に出ていろいろなものを見てみたいというのがありました。いくつか紹介していただいた中から、もっとも興味のあるところを選びました。

真下 私は臨床を希望しましたので、とにかく英語力が必要だというアドバイスはいろいろな方からいただきました。ホスピスの方からも語学学校に行つてからなら受け入れようと言われなかったので、現地で1カ月半の間、英語のトレーニングを受けました。

友野 出発前に解剖学講座で、研究に必要な基本的な知識を学んで、ある程度対応できるようにしていったつもりですが、やはり新しいことは、そのつど教えてもらいました。難しかった点もありましたが、日本ではできなかったこともさせていただきました。

研究室では英語でコミュニケーション



友野

をとりますので、前年に英語の語学留学もしていました。直前には英会話の



岸本



霧困気でみなとでも親切でした。
小島 現地で中絶胎児

岸本 研究所はボストンのメデイカルエリアにあって、世界的に有名な病院が集まっています。いろんな最先端の研究のボスが集まっている。自分もその一員になったという、ちょっと誇らしい気がしました。

私がお世話になった研究室は温かい雰囲気です。みなとでも親切でした。小島 現地で中絶胎児

テープを聞いたりしました。
長尾 コネクションのないまま行ったのですが、非常にうまく受け入れていただけで、希望していた以上の収穫がありました。4年に1度の世界乳幼児精神保健学会が、距離的にも近いモントリオールで開催されましたので、そこらにも出席することができました。
山下 3年生でちょうど基礎課程が終

第一線の医療や研究に刺激を受け、さまざまな出会いが励みに。

研修で印象に残ったことや、日本との違いを感じられたことはありましたか。

山下 ミシガン大学には3つの大きなラボがあって、その中には研究室が200〜300あったと思います。私がいたフロアは6割くらいが中国の方でしたが、とにかく外国から研究に来ている人が多かったですね。たくさんの人たちが外国からやって来て切磋琢磨しているということに、刺激を受けました。

わっていますので、そういう意味では研修にいい時期だったと思います。1月から6月まで学内の解剖学教室で必要なトレーニングを受けました。英語のほうは、昨年ロンドンに1カ月の語学留学をしますので、今回は多少は聞きやすくなったという感じがしました。

の脳や脊髄を使って細胞を培養する研究をさせていただいた時には、少なからず動揺したというか、自分の中で葛藤がありました。社会的な利益を冷静に考えて、倫理的な問題を乗り越えるという欧米社会の冷静な知性を感じました。



浅野

浅野 ラジオアイソトープの扱い方が日本とかなり違うと感じました。研究以外ではドイツをはじめ、さまざまな国から来た人たちと仲良くなつて、料理を教えてもらったり、楽しい思い出もたくさんできたことが印象に残っています。

私は香港に住んでいたことがありますが、日本はもちろん香港でもマジョリティーが決まっています。向こうではほんとうにいろいろな国の人がいて、対等に研究に従事しているということを実感しました。
長尾 病院のポリシーというが使命として、家族中心の最善の医療を提供するということがあって、医師や看護婦だけでなくすべての職種の人たちが、上下の区別なくお互いにプロとして尊重し合いながら、誇りをもって働いていることがたいへん印象的でした。医学士に対しては開かれていて、たいへんオープンな明るい雰囲気がある。また、たくさんの女性スタッフが生き生きと仕事をしておられる姿を見て、たいへん勇気づけられました。
友野 研究の時間帯とかは個人の管理に任ざられていて個人主義が徹底しているのですが、研究室全体はきちんとまとまっているという印象を受けました。スウェーデンの人たちは朝がとても早く、7時にラボに来て3時に帰るといったことがめずらしくありません。夏は11時頃まで明るいんですが、仕事が済んだらしっかりオフを楽しんでいて、余暇の楽しみ方を知っているという感じでした。
真下 デイセンターやホームケアが充実していて、設備、人材が豊富なことなど進んでいる点が多く、一般市民のホスピスに対する認知度も高いということを感じました。
日本の病院と違ってスタッフの数がすごく多いので、一人当たりの仕事が少ないせいもあって、手の空いた時間には患者さんとおしゃべりしたり、英語を教えていただいたりしました。
また、同じように老人医療を志すポーランドの医学士のボランティアと親しくなりました。同じ年代の人で同じ夢をもっている人に出会って、将来に対する夢を語り合



小島

また、同じように老人医療を志すポーランドの医学士のボランティアと親しくなりました。同じ年代の人で同じ夢をもっている人に出会って、将来に対する夢を語り合



山下

ある程度決まっていますが、人間関係を結ぶうえで友人との会話のほうは、細かいニュアンスが伝わらなくて苦労しました。
友野 スウェーデンのことをよく知らずに行つたので、夏でも寒いのは驚きました。雨がよく降って、横から吹き付けるような傘が役に立たない雨でした。
真下 日本のホスピスでボランティアをした時は、お茶の用意や掃除、患者さんの話し相手などをしたが、今回は看護婦さんの仕事のお手伝いを中心に、はじめは何をすればいいかわからなくて戸惑いました。海外ボランティアのほとんどは、看護婦か看護学生なのですが、その人たちはよく分かっていたみたいですが、学校で習わないような医療用語を使うのでたいへんでした。
実は、初めは研修を断られたのですが、その理由はやはり英語が十分でな

きました。
苦勞されたこと、戸惑われたことなどはありましたか。
長尾 院内の託児施設でボランティアをしましたが、実際に働くとなると子どもの英語がなかなか理解できなくて思い通りの働きができなくて苦勞しました。日常生活では会話に不自由はなかったのですが、やはり働くということとは少し違うと感じました。
小島 会話のほうは研究室内で使うことはある程度決まっていますが、人間関係を結ぶうえで友人との会話のほうは、細かいニュアンスが伝わらなくて苦労しました。



いことで、そのことがプレッシャーになって、特に看護婦さんと話をする時は萎縮してしまいました。もっと「気負

貴重な経験を生かし、優れた医師・研究者をめざしたい。

今回の研修でどのような成果や反省点があったか、この経験をどのように生かしていくかについて聞かせてください。これから研修に参加する後輩へのアドバイスがありましたら、併せてお願いします。

山下 日本で医師になるチャンスが与えられている、滋賀医大で勉強できるということの良い一面を認識しました。たとえば、日本には良い教科書がたくさんありますが、韓国の留學生の話や韓国語の教科書がないため英語で書かれたものを使うこともあって、母国語と英語半々で授業を受けているそうです。

反面、日本語だけでやっているというのもし少し異常な気がしますので、いろんな機会を通じて英語にふれていくという努力を、残された学生時代を通じてやっていきたいと思っています。岸本 ラボだけでなく、いろいろなことを体験したいというのが目的だったので、プレゼンテーションを聞いたり、臨床の現場を見せていただいたりしようと心掛けました。

成果としては、予想以上に忙しかったものの研究者の一員としてがんばれたことです。同年

わずかに会話すればよかったと思っ

代の人がペーパーまで書けるということに驚いたり、まわりの人がどのよう

小島 外国から研究に来ている人たちは、みな将来のビジョンを持っていて、遠くをしっかりと見て今現在をがんばっているということが印象に残りました。自分はどうかを考えると、医学部に入る時は確かにそういう目標をもっていたのですが、日々の忙しさに追われて、近視眼的になっ

浅野 たくさんの人たちと出会えて、いろいろ話ができ



長尾 自分が進みたい分野で活躍しておられるたくさんの人に出会って、そういう方たちのレベルの高さを感じて、身の引き締まる思いを感じるともに自分の将来に夢や希望が広がりました。これからの勉強の励みになると

そしてカナダの素晴らしい状況を見てきましたので、日本の現状を変えるために少しでも貢献できるように、この経験をこれから還元していきたいと考えています。

友野 今回の経験が、将来海外で働きたいということに具体的にどのように役立つかまだわかりませんが、視野が広がったことが大きな成果です。海外の研究室は活気にあふれていて、がんばっている研究者の姿を目の当たりにできて、研究がどのように医療に還元されているかを考える機会にもなりました。

反省点としては、研究室ばかりにいたのですが、事前に頼んでおいたら、もっと研究室の外の臨床の現場なども見学できたのではないかと思います。真下 いろいろの人に出会えたこと、患者さんの気持ちやスタッフ、特に看護婦さんの気持ちが理解できたことがプラスになりました。また、日本とイギリスのホスピスの

違いというものの、日本のホスピスの良い点、歴史のあるイギリスのホスピスの良い点などを比較できたことが、とても良かったと思います。高齢化が進む日本で、自分の今回の経験が少しでも役立てられたらと思います。

最後に北嶋先生から、一言ご感想をお願いいたします。

北嶋 今回の研修制度は大学として初めてのこと、目的は研究者の育成や、リサーチマインドをもった臨床医を育てること、そして、自主的・積極的に考え、行動する人材の育成ということですが、今のお話を聞いてみると、みなさんすべてが目的を達成しているようで、非常にうれしく思います。

研究所や病院で知識や体験を得られたことはもちろんですが、人間的にも大きく成長したという印象を受けました。そういう意味で、単なる医学研修ではなくて人間研修という意味があったと思います。

みなさんには今回の経験を生かして、またさらにこれからも広く世界を見ることで視野を広げながら、積極的にとどんどんいろいろのことに挑戦してほしいと思っています。



北嶋教授